

## 2. GX WORKS3の設定

### 2-3. グローバルラベルとリフレッシュの割付け

ラベル名		データ型	クラス	割付け(デバイス/ラベル)
1	G_DeviceIdent	stDeviceIdent(0.7)	VAR_GLOBAL	▼ 詳細設定
2	G_stIO-LinkBasicIn	stRemoteDataBasicIn(0.5)	VAR_GLOBAL	▼ 詳細設定
3	G_stIO-LinkBasicOut	stRemoteDataBasicOut(0.5)	VAR_GLOBAL	▼ 詳細設定
4				

Globalラベルを新規に作成する。上記の例では、

G\_stIO-LinkBasicIn :

リフレッシュのRX,RWrを登録。データ型は構造体「stRemoteDataBasicIn」

G\_stIO-LinkBasicOut :

リフレッシュのRY,RWwを登録。データ型は構造体「stRemoteDataBasicOut」

ラベル登録後に詳細設定に進む。

## 2. GX WORKS3の設定

### 2-3. グローバルラベルとリフレッシュの割付け

構造体デバイス設定画面

構造体デバイス設定画面

設定項目

デバイス名	PLC側			リフレッシュ先	デバイス名	CPU側		
	点数	先頭	最終			点数	先頭	最終
RX	128	00000	0007F	指定デバイス	X	128	100	277
RY	128	00000	0007F	指定デバイス	Y	128	100	277
RWr	64	00000	0003F	指定デバイス	D	64	500	563
RWw	64	00000	0003F	指定デバイス	D	64	700	763

リフレッシュで指定したアドレスを構造体のデバイスに指定する。一番最初の引数[0]にリフレッシュの先頭アドレスを指定すれば残りは自動割り付けされる。

## 2. GX WORKS3の設定

### 2-3. グローバルラベルとリフレッシュの割付け

ラベル名		データ型	クラス	割付け(デバイス/ラベル)
1	G_DeviceIndent	stDeviceIndent(0..7)	VAR_GLOBAL	<a href="#">詳細設定</a>
2	G_stIOLinkBasicIn	stRemoteDataBasicIn(0..5)	VAR_GLOBAL	<a href="#">詳細設定</a>
3	G_stIOLinkBasicOut	stRemoteDataBasicOut(0..5)	VAR_GLOBAL	<a href="#">詳細設定</a>
4				

デバイス検出機能用のGlobalラベルを新規に作成する。上記の例では、

G\_DeviceIndent :

データ型は構造体「stDeviceIndent」、サイズは8ワード。詳細設定は不要で、データは直接ラベルでモニタする。